



コピーで思いを伝えたい。

その気持ちはいつまでも変わらない。

(コピーライター 佐藤由起子)

デザイン会社たき工房には、20名のコピーライターがいる。コミュニケーション・プランニング(CP)室所属、入社7年目の佐藤由起子もその一人だ。

「大学で映画学科を専攻していたこともあり、はじめは映画の配給会社への就職を考えていました。映画宣伝の仕事が夢だった。その後、広く広告の仕事をしたいと考えようになり、コピーライター職を募集していたこの会社を見つけ応募しました。ある意味、偶然の出会いだったかもしれません」

以来、コピーを書き続け、今では担当するクライアントも多岐にわたる。

「化粧品をはじめ、飲料、通信サービスなど。映画の宣伝も担当し、思わぬ形で夢が叶ってしまいました。(笑)コピーライターになってよかったのは、いろんな人と出会えること。そして、自分の言葉を世の中に送り出せること。家族や友達に実際の仕事を見せると、自分のことのように喜んでくれる。そんなときは辛かった作業も忘れて、また頑張ろうって思えます」

この6月からは心機一転、新しい環境で仕事をはじめている。

「社内のウェブチームに向かい、ウェブプランニングについて勉強しています。環境が変わった今は、とてもフレッシュな気持ちでやらせてもらっています。緊張感のある毎日。新人の懐かしい気持ちがいまがえりますね」

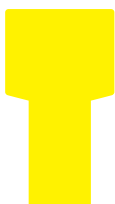
では、もともと彼女が所属するCP室とはどのようなチームなのか。

「時代が変わり、コピーライターに求められる力も変わりました。CP室がめざすのは、コミュニケーション全体をプランニングできる人。コピーライターとして、クライアントのオーダーに真摯に応えるのももちろんのこと、プランナーとして、プロモーション全体を組み立てられるようになりたいと考えています」

しかし、そう語る彼女も『1本のコピーで人の思いを伝えたい』という気持ちに変わりはない。

「自分の仕事を1本でも多く世に出せるよう、コピーを書き続けます。やはり自分は、言葉を扱う仕事が好きなんだと思います。あと、CMも作りたいし、小説も書きたい。そろそろ落ち着いて仕事したい自分と、まだまだがむしやらでいたい自分があります」  
そんな一生懸命さと人柄で、彼女を慕うデザイナーも多い。女性コピーライターとしてのこれからの大いに期待される。

人の思いをカタチにし、伝える。  
たき工房は創立50周年。



TAKI CORPORATION

50

TAKI GROUP 50th